

【うれしいひなまつり】

灯りをつけましょ雪洞（ぼんぼり）に
お花をあげましょ桃の花
五人囃子（ごにんばやし）の笛太鼓（ふえたいこ）
今日は楽しい雛祭り（ひなまつり）

お内裏様（おだいらさま）とお雛様（おひなさま）
二人並んですまし顔
お嫁にいらした姉様に
よく似た官女（かんじょ）の白い顔

金の屏風（びょうぶ）に映る（うつる）灯（ひ）を
かすかに揺（ゆ）する春の風
少し白酒（しろざけ）召（め）されたか
赤いお顔の右大臣（うだいじん）

着物を着かえて帯（おび）しめて
今日は私も晴れ姿
春の弥生（やよい）のこの良き日
何より嬉（うれ）しい雛祭り（ひなまつり）

【どこかで春が】

どこかで春が生まれてる
どこかで水が流れ出す
どこかで雲雀（ひばり）が啼（な）いている
どこかで芽（め）の出る音とする
山の三月（さんがつ）東風（こち）吹（ふ）いて
どこかで春が生まれてる

【春がきた】

春が来た春が来たどこに来た
山に来た里に来た
野にも来た

花が咲く花が咲くどこに咲く
山に咲く里に咲く
野にも咲く

鳥が鳴（な）く鳥が鳴（な）くどこで鳴（な）く
山で鳴（な）く里で鳴（な）く
野でも鳴（な）く

【うぐいす】

梅の小枝（こえだ）で鶯（うぐいす）は
春が来たよと歌います
ホウ ホウ ホケキヨ
ホウ ホケキヨ

雪のお山を昨日（きのう）出て
里へ来たよと歌います。
ホウ ホウ ホケキヨ
ホウ ホケキヨ

【蛍の光】

蛍（ほたる）の光 窓（まど）の雪
書（ふみ）読む月日（つきひ）重ねつつ
何時（いつ）しか年（とし）もすぎの戸（と）を
開（あ）けてぞ今朝（けさ）は別（わか）れゆく

止（と）まるも行（ゆ）くも限（かぎ）りとして
互（かたみ）に思（おも）ふ（う）千万（ちよろず）の
心（こころ）の端（はし）を一言（ひとこと）に
幸（さき）くと許（ばか）り歌ふ（うとう）なり

筑紫（つくし）の極（きわ）み陸（みち）の奥（おく）
海山（うみやま）遠く隔（へだ）つとも
その真心（まごころ）は隔（へだ）てなく
一（ひと）つに尽（つ）くせ国（くに）の為（ため）

千島（ちしま）の奥（おく）も沖縄（おきなわ）も
八洲（やしま）の内（うち）の護り（まもり）なり
至（いた）らん国（くに）に勲（いさお）しく
努（つと）めよ我（わ）が兄（せ）恙無（つつがな）く

【仰げば尊し】

仰（あお）げば尊（とうと）し
我（わ）が師（し）の恩（おん）
教（おし）えの庭（にわ）にも
はや幾年（いくとせ）
思（おも）えばいと疾（と）し
この年月（としつき）
今こそ別（わか）れめ
いざさらば

互（たがい）に睦（むつみ）し
日頃（ひごろ）の恩（おん）
別（わか）るる後（のち）にも
やよ忘（わす）るな
身（み）を立（た）て名（な）をあげ
やよ励（はげ）めよ
今こそ別（わか）れめ
いざさらば

朝夕（あさゆう）馴（な）れにし
学（まな）びの窓（まど）
蛍（ほたる）と灯火（ともしび）
積（つ）む白雪（しらゆき）
忘（わす）るる間（ま）ぞなき
ゆく年月（としつき）
今こそ別（わか）れめ
いざさらば